

総合理工学インスティテュート (IIST)

I 2019年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2019年度大学評価結果総評】 (参考)

総合理工学インスティテュートは大学院教育のグローバル化推進を目的として、(1)さくらサイエンスプランへの応募、(2)IIST コロキウムの開催、(3)現地訪問を通じた広報活動を継続的に行うことで学生数を確実に増加しており、また2019年度入試で20名の応募があり定員充足が予想されることから、グローバル化推進の取り組みは適切に実施されていると評価できる。教員・教員組織に関しても適切であり、IIST コロキウムなどを通じた研究成果の発信も行われている。

一方、学生による授業改善アンケートは未だに実施されておらず、学生の意見を反映する仕組みを早急に確立する必要がある。また、定員充足を継続的に維持するためには、外部資金獲得による奨学金制度の充実や学生に人気のある研究分野を修士学生受入対象に追加するなど新たな取り組みが期待される。英語で学位取得ができる理系研究科は国内の私大には未だ少なく、本学大学院教育のグローバル化を推進する上で重要な役割を担っていると考えられる。奨学金や修士学生の受け入れ研究分野の拡張なども視野に入れ、安定的に定員を充足するための継続的な取り組みが望まれる。

【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

年度末、IIST 在學生を対象に授業・生活アンケートを実施した。IIST が提供する研究環境と指導、授業、生活サポートに関する満足のレベルをフリーフォーマットで回答を求める内容で、40名中27名(67.5%)から回答があった。これらのアンケート結果を運営委員会で共有し、教育・研究環境の改善にむけたPDCAサイクルを仕組みとして確立してゆくこととする。奨学金制度の充実については強く望むところではあるが理事会事項でもあり、IISTとしては大学院研究科長会議で議論されている博士課程無償化の進捗に注目したい。科目の充実についてはご指摘のように安定的な定員確保にむけた重要課題であるとともにIISTとしては学びのニーズにこたえるカリキュラム再編として重要視している。年度目標で述べたようにフィールド新設に関連させ、充実させる計画である。現在本年度9月入学生受け入れの入試期間中であるが昨年に引き続き定員確保の見通しである。

【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

総合理工学インスティテュート(以降、IIST)における大学院教育のグローバル化推進および教員・教員組織は適切であり、研究成果の発信も滞りなく行われているが、学生の意見を反映する仕組みを早急に確立する必要があること、また、定員充足を維持するためには、外部資金獲得による奨学金制度の充実や学生に人気のある研究分野を修士学生受入対象に追加するなど新たな取り組みが期待されている。この2019年度の評価結果に対し、IISTでは、在學生を対象に授業・生活アンケートを年度末に実施し、その結果を運営委員会で共有し、教育・研究環境の改善にむけたPDCAサイクルを仕組みとして確立したことは高く評価できる。また、科目の充実については学びのニーズにこたえるカリキュラム再編し、フィールド新設に関連させて科目を充実させる計画であることも評価に値する。

II 自己点検・評価

1 教育課程・教育内容

【2020年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。

S A B

※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。

はい いいえ

【根拠資料】 ※「はい」を選択した場合に単位化及び修了要件として設定されていることが確認できる資料を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

・情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S A B
※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	S A B
※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。	
【修士】	
【博士】	
インテリジェントロボティクスフィールド・データサイエンスフィールドの新設に向けた検討を始めている。前者については準備委員会を発足させ検討を進めている。	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
・特になし	
⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	S A B
※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。	
【修士】	
【修士・博士共通】	
IIST コロキウムを3回実施・企画した	
■2019年10月2日上海復旦大学のYibo Fan教授を招待し次世代高精細ギガピクセルビデオカメラのシステム設計からハードウェア設計に至る最新の研究動向を紹介頂いた。	
■2019年11月26日台湾国立中央大学のTimothy K. Shih 特別荣誉教授、Wen-June Wang 教授を招待しそれぞれ視覚障害者のための支援デバイス開発、深層学習を用いた精密動作分析とHCI(ヒューマン・コンピュータインタラクション)への応用に関する先進的な研究成果のご講演を頂いた。	
いずれの講演についても、多くの教員、大学院生の参加があり熱心な討論が行われた。	
■コロナウィルスの影響を受け先送りになっている IIST 学生の修士論文中間発表会をオンライン会議システムで実施する計画を企画、実施の予定である。君館的な制約を超えて海外からの参加も可能とするものであり、今後の IIST グローバル化のありかたをさぐる重要な意義をもつと思われる。	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
・実施コロキウムプログラム(根拠資料1)	
1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S A B
※履修指導の体制および方法を記入。	
【修士】	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【博士】	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
<p>②研究科（専攻）として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。</p>	<p>はい いいえ</p>
<p>※ここでいう「研究指導計画」とは、事務手続きのスケジュールやシラバス等の個別教員の指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導体制及び研究指導スケジュールをまとめたものを指します（学位取得までのロードマップの明示等）。また、「あらかじめ学生が知ることの状態」とは、HP や要項への掲載、ガイダンスでの配布等が考えられます。</p>	
<p>【修士】 ガイダンス時、学位取得までのロードマップを含む研究指導スケジュールを英語で伝えている。</p>	
<p>【博士】 ガイダンス時、学位取得までのロードマップを含む研究指導スケジュールを英語で伝えている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。 ・IIST2019 ガイダンスレジュメ(根拠資料2)</p>	
<p>③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。</p>	<p>はい いいえ</p>
<p>※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。</p>	
<p>【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p>	
<p>【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
<p>1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。</p>	
<p>①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。</p>	<p>S A B</p>
<p>※成績評価と単位認定の確認体制及び方法を記入。</p>	
<p>【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p>	
<p>【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p>	
<p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
<p>②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。</p>	<p>はい いいえ</p>
<p>※学位論文審査基準の名称及び明示方法を記入。</p>	
<p>【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p>	
<p>【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p>	
<p>【根拠資料】 ※学位論文審査基準にあたる文書の名称を記入。また、冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。</p>	
<p>③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。</p>	<p>はい いいえ</p>
<p>※簡条書きで記入※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。</p>	
<p>情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
<p>④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。</p>	<p>S A B</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

※取り組み概要を記入。	
【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。	S A B
※責任体制及び手続等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入。	
【修士】 ・情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【博士】 ・情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。 修了生が少ないこともあり就職・進学状況はおおむね把握している。本年度 IIST 在学生を対象に授業・生活アンケートを実施したが、今後はキャリアパスの希望も含めた調査を実施したい。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S A B
※取り組みの概要を記入。	
【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
②具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。	
【修士】	
【修士・博士】 IIST 在学生の発表論文リストを作成、累積で 101 件のジャーナル 論文、学会発表を確認した。	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

・ IIST 在学生発表論文リスト(根拠資料 3)	
1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S A B
※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。	
【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S A B
※取り組みの概要を記入。	
IIST 在学生を対象に授業・生活アンケートを実施した。IIST が提供する研究環境と指導、授業、生活サポートに関する満足のレベルをフリーフォーマットで回答を求める内容で、40 名中 27 名(67.5%)から回答があった。	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。	
・ IIST 在学生アンケート結果 (根拠資料 4)	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・本年度在学生の研究論文公表調査を実施し回答のあった 16 名について 101 件の論文発表が確認され、研究力レベルの高さが実証された。応募学生に対して指導教授との事前マッチング、研究計画、学業成績などの事前スクリーニングを実施している成果であると思われる。昨年度より定員充足を果たし、本年度も定員確保の見通しがたっていることから教育研究の質・量ともに適正なレベルに達していると評価される。	1.4②

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・終了後のキャリア支援が十分とは言えない。本年度実施した在学生を対象に授業・生活アンケートの内容を充実させ、出口サポートを強化したい。	1.3⑥

【この基準の大学評価】

<p>専門分野の高度化に対応した教育内容提供のため、インテリジェントロボティクスフィールド新設検討委員会を IIST 運営委員会内に設置し、フィールドを構成する科目群の整備に向けた検討をスタートさせたことを評価する。また、留学生の学びのニーズが高い「機械学習」「ニューラルネットの理論と応用」「無線センサーネットワーク入門」「デジタルシステム設計」「先進経営科学特論」を新設したことを評価する。学習成果を把握・評価するために、IIST 在学生の発表論文リストを作成し 101 件のジャーナル論文、学会発表を確認したことは、応募学生に対して指導教授との事前マッチング、研究計画、学業成績などの事前スクリーニングを実施している成果であり、高く評価できる。グローバル化推進のための取り組みとして、IIST コロキウムを 3 回実施・企画したことは評価に値する。学位取得までのロードマップを含む研究指導スケジュールを英文資料化しガイダンス時に説明していることを評価する。アンケートの組織的利用に関しては、IIST 在学生を対象に IIST が提供する研究環境と指導、授業、生活サポートに関する満足のレベルをフリーフォーマットで回答を求める授業・生活アンケートを実施したことを評価する。</p>
--

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

昨年度、定員充足を達成し、本年度も定員確保の見通しがあり、教育研究の質・量とも適正なレベルに達していることを高く評価する。

2 教員・教員組織

【2020年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①研究科（専攻）独自のFD活動は適切に行われていますか。 S A B

【FD活動を行なうための体制】 ※箇条書きで記入。

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照

【2019年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】 ※箇条書きで記入。

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。 S A B

※取り組みの概要を記入。

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

情報科学研究科国際化専念教員を1名採用し、英語による講義・研究指導を担う教員の割合を増やした。本年度採用教員は情報科学研究科ダブルディグリープログラムと兼務であるが、現行のIIST専任教員と合わせて2名の教員が英語学位プログラム対応に特化した専任教員となり、英語講義担当者増員は評価に値する。一般教員で留学生が受講希望したときに英語に切り替えて講義を担当できる教員を増やすことで、教育の内容を充実させるとともに教員の負荷分散を図るといふ取り組みは評価できる。

III 2019年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	既存の6つの横断的学びのフィールド（Global Information Systems, Ubiquitous Network and Communication Systems, Global Business Analysis and Planning, Media and Information Processing, Advanced Bioscience and Chemical Engineering, Advanced Bioscience and Chemical Engineering）を見直し、留学生から学びの需要の高い内容を反映させたフィールドを明示的に設けるなど、再編を行う。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	年度目標	従来のフィールドを見直すとともに、留学生からの学びの需要が高いロボット工学、データサイエンス分野のフィールドの新設を検討する。	
	達成指標	既存フィールド、新規フィールドの応募者数	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	4月にインテリジェントロボティクスフィールド新設検討委員会をIIST運営委員会内に設置し、専攻横断的なフィールド設置に向けて検討を進めている。委員会は電気電子専攻2名、応用情報工学専攻2名、システム理工学専攻(創生科学系)より1名の委員により構成される。フィールドを構成する科目群の整備に向けた検討をスタートさせた。データサイエンス分野については進捗がなく、来年度ロボティクスフィールド新設と合わせて成案の策定を目指したい。
		改善策	ロボティクスフィールドについてはフィールドを担当する教員組織、横断的指導内容について、検討が進んでいる。データサイエンス分野についても同様な横断的組織化に関する検討を行い、来年度、予定されている、IISTに認められた増コマを有効に活用した抜本的なカリキュラム改定と歩調を合わせて2フィールドの新設を目指す。
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	—
改善のための提言	—		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
2	中期目標	IISTに認められた増コマを有効に活用し、英語科目を充実させる。	
	年度目標	留学生の学びのニーズに応じた科目の整備	
	達成指標	英語対応科目数	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	留学生の学びのニーズが高い「機械学習」「ニューラルネットの理論と応用」「無線センサーネットワーク入門」「デジタルシステム設計」「先進経営科学特論」を新設した。上記科目は英語科目の改廃によるものであり英語科目増はない。
		改善策	これまでの英語学位プログラム運営の実績を踏まえ来年度は留学生の学びのニーズに即した英語設置科目の見直しを行う。現在開設されている日本語科目についても担当教員と主催専攻の理解を得て英語の切り替えられる科目を増加させたい。
		質保証委員会による点検・評価	
所見		—	
改善のための提言	—		
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
3	中期目標	学習成果を学術論文出版、国際会議研究発表などを通じて示す。	
	年度目標	IIST学生の発表論文リストを作成する。IIST学生の研究成果を発表する機会(IISTコロキウム)を企画する。修士、博士論文の公聴会を開催する。	
	達成指標	刊行・発表論文数	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	IIST在学学生(修士22名、博士14名)の発表論文リストを作成し101件のジャーナル論文、学会発表を確認、大きな学習成果を挙げていることを確認した。(別添資料参照) また、3名の博士課程学生(情報科学1名、理工学2名)が本年度博士号を取得したことも特筆すべき学習成果といえる。
改善策	学内向けの研究成果発表の機会(IISTコロキウム)については修士2年生の論文中間報告会を兼ねて来年度4月に実施の予定である。		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		質保証委員会による点検・評価
	所見	－
	改善のための提言	－
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	研究能力レベルの高い学生を受け入れると共に定員を恒常的に確保する。
	年度目標	受け入れガイドラインを設定し、優秀な学生を選択的に受け入れる。
	達成指標	入学後の研究成果
		教授会執行部による点検・評価
	自己評価	S
	理由	IIST 応募留学生においては博士課程進学希望者が多いがコースワークを重視した欧米大学と異なり、入学時すでに研究能力を有することを一定レベルで担保するガイドラインを策定した。修士課程に於いても同様のガイドラインを策定した。
	改善策	策定したガイドラインに従って学生を受け入れ、妥当性について評価し必要であれば改善する PDCA サイクルを確立したい。
		質保証委員会による点検・評価
	所見	－
	改善のための提言	－
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	英語による講義・研究指導を担う教員の割合を増やす。
	年度目標	情報科学研究科国際化専念教員の採用
	達成指標	英語講義担当者数の割合
		教授会執行部による点検・評価
	自己評価	A
	理由	国際化専念教員を1名採用した。本年度採用教員は情報科学研究科ダブルディグリープログラムと兼務であるが、現行の IIST 専任教員と合わせて2名の教員が英語学位プログラム対応に特化した専任教員となる。
	改善策	一般教員で留学生が受講希望したときに英語に切り替えて講義を担当できる教員を増やし、教育の内容を充実させるとともに教員の負荷分散を図る。
		質保証委員会による点検・評価
	所見	－
	改善のための提言	－
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	学内外の奨学金、学内 TA、RA などの経済支援、留学生のニーズにあったキャリア支援を充実させる。
	年度目標	留学生を受けられる奨学金の調査及びリストを作成する。キャリア支援についてはキャリアセンターと協働で英語学位プログラム修了者のキャリアパスの可能性を調査する。
	達成指標	進学・就職率
		教授会執行部による点検・評価
	自己評価	B
	理由	留学生を受けられる奨学金については英文資料を作成し、入学時ガイダンスで配布している。キャリア支援についてはキャリアセンターと英語のみで採用される企業の調査をスタートさせたが、調査段階であり留学生支援には至っていない。
	改善策	今後修了生の増加に伴い、キャリア支援の必要性が高まる。学生からのキャリアニーズをふまえたキャリアパス支援の体制を整えたい
		質保証委員会による点検・評価

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	所見	－	
	改善のための提言	－	
No	評価基準	社会貢献・社会連携	
7	中期目標	研究成果のグローバルな発信及び優れたグローバル人材を輩出することにより社会貢献を果たす。	
	年度目標	教育内容を充実させ、優れた研究成果を挙げるよう指導する。	
	達成指標	刊行・発表論文数、グローバル企業就職率	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	教育課程・学習効果の項で述べたように、在學生は多くの優れた英語学術論文を発表している。このことは IIST の教育の質が高くグローバルな社会貢献を果たしていると評価される。
		改善策	課程修了後の追跡調査を実施し、修了生の社会貢献度を評価する。
		質保証委員会による点検・評価	
所見		－	
改善のための提言		－	

【重点目標】

2016年に発足し、昨年度修士課程修了生を出したことに鑑み教育課程の見直し、特にこれまでの実績、留學生の学びのニーズに鑑み横断的なフィールドの見直しの検討を重点目標としたい。新たなフィールドの設置については教員有志による新設フィールド設置検討準備委員会を設けて検討を進める。また、運営委員会において IIST 創設当時認められたコマの有効活用も合わせて検討する。

【年度目標達成状況総括】

2016年度発足以来、アジア・東欧地区等への現地広報・ABE イニシャティブプログラム受け入れ、さくらサイエンスプランによる大学生招聘などを通じて国際的認知度を高め、本年度定員充足を果たした。受け入れ時に応募者全員に対して個別に学識確認、指導教員の事前マッチングをメール、ビデオ事前面接等を通じて行い、質の高い学生を確保している。そのことは本年度実施した発表論文調査で在學生が累積 101 件のジャーナル・国際会議論文を発表していること、本年度 3 名の博士課程修了生を輩出したことなどから明らかである。また、この実績は本教育課程が高い学習成果を挙げていることを示している。今後、本年度検討を開始した、ニーズの高いフィールドの創設、英語設置科目の改定に取り組み教育内容を充実させてゆきたい。また、在學生の修了後のキャリアパスサポートを充実させることも課題として残った。

【2019 年度目標の達成状況に関する大学評価】

IIST では、教育課程・教育内容の「既存の学びフィールドを見直し、需要の高いフィールドの新設を検討する」という目標設定に対し、インテリジェントロボティクスフィールド新設検討委員会を I I S T 運営委員会内に設置し、フィールドの整備をスタートさせたことは評価できる。一方で、データサイエンス分野については進捗がないため、今後の進展を期待したい。

教育方法に関しては、「英語科目を充実させる」「ニーズに応じた科目の整備」という中期・年度目標に対し、「機械学習」「ニューラルネットの理論と応用」「無線センサーネットワーク入門」「デジタルシステム設計」「先進経営科学特論」を新設したことを評価する。学習成果に関しては、「発表論文リストを作成する」という年度目標設定に対し、実際に発表論文リストを整理作成し 101 件のジャーナル論文、学会発表を確認したこと、3 名の博士課程学生が博士号を取得したことは評価に値する。

學生の受け入れに関して「研究能力の高い學生を受け入れ、恒常的に定員を確保する」という目標に対し、留學生の入学時研究能力のガイドラインを策定するとともに、修士課程も同様のガイドラインを策定したことを評価する。教員・教員組織の「英語講義・研究指導を担う教員増」という目標に対し、国際化専念教員を 1 名採用したことを評価する。學生支援の「学内外の奨学金、経済支援、キャリア支援の充実」という目標に対し、奨学金に関する英文資料を作成し、入学時ガイダンスで配布していることを評価する。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

IV 2020 年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	既存の6つの横断的学びのフィールド (Global Information Systems, Ubiquitous Network and Communication Systems, Global Business Analysis and Planning, Media and Information Processing, Advanced Bioscience and Chemical Engineering, Advanced Bioscience and Chemical Engineering) を見直し、留学生から学びの需要の高い内容を反映させたフィールドを明示的に設けるなど、再編を行う。
	年度目標	留学生の学びのニーズに対応すべく懸案の2フィールドすなわち、インテリジェントロボティクスフィールドおよびデータサイエンスフィールド (いずれも仮称) の新設を目指す。両フィールドを研究科横断的とし、特色ある総合的な学びの環境を提供する。
	達成指標	インテリジェントロボティクスフィールドおよびデータサイエンスフィールド (仮称) の新設
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	IIST に認められた増コマを有効に活用し、英語科目を充実させる。
	年度目標	IIST 科目の統廃合、新設により計画中新設フィールドの対応を核とする英語科目の充実を図る。
	達成指標	フィールドに対応した英語科目の体系化達成
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	学習成果を学術論文出版、国際会議研究発表などを通じて示す。
	年度目標	継続して IIST 学生の発表論文リストを作成する。IIST 学生の研究成果発表の機会を設ける。
	達成指標	刊行・発表論文数
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	研究能力レベルの高い学生を受け入れると共に定員を恒常的に確保する。
	年度目標	定員充足を達成しつつ、昨年度策定したガイドラインに従い、丁寧な応募前事前マッチングにより優秀な学生を選別する。
	達成指標	定員充足率、入学後の研究成果
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	英語による講義・研究指導を担う教員の割合を増やす。
	年度目標	教員へのヒアリング等を通じて英語対応科目 (IIST 学生からの受講希望により英語対応に切り替える) を拡充する。
	達成指標	英語講義対応教員数
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	学内外の奨学金、学内 TA、RA などの経済支援、留学生のニーズにあったキャリア支援を充実させる。
	年度目標	キャリアセンターと連携し組織的なキャリア支援の仕組みを検討する。
	達成指標	進学・就職率
No	評価基準	社会貢献・社会連携
7	中期目標	研究成果のグローバルな発信及び優れたグローバル人材を輩出することにより社会貢献を果たす。
	年度目標	教育内容・研究指導を充実させ優れたグローバル人材を輩出する。
	達成指標	刊行・発表論文数、博士進学数 社会のグローバル化を担う人材輩出数
<p>【重点目標】 留学生の学びのニーズが高い新規フィールド (インテリジェントロボティクスフィールドおよびデータサイエンスフィールドいずれも仮称) の新設を目指す。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p>		

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

IIST に認められた増コマを有効に活用し、英語対応科目の統廃合を行うことにより系統的な授業カリキュラムを構築する。運営委員会及び必要に応じて特設委員会を設け研究科、専攻横断的な検討を進める。

【2020 年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

IIST の教育課程・教育内容では「既存の 6 つの横断的学びのフィールドを見直し」を掲げ、「留学生の学びのニーズに対応するインテリジェントロボティクスフィールドおよびデータサイエンスフィールドの新設し、両フィールドを研究科横断的とした特色ある総合的な学びの環境を提供する」という目標設定は、極めて重要であり高く評価できる。教育目標における「IIST 科目の統廃合、新設により計画中的の新設フィールドの対応を核とする英語科目の充実を図る」という年度目標も評価に値する。

学生の受け入れに関して「研究能力レベルの高い学生を受け入れ、恒常的な定員確保に向けて応募前事前マッチングにより優秀な学生を選別する」という活動は適切な目標である。教員・教員組織の「英語による講義・研究指導を担う教員へのヒアリング等を通じて英語対応科目を拡充する」や、学生支援の「学内外の奨学金、学内 TA、RA などの経済支援、留学生のニーズにあったキャリア支援を充実させるために、キャリアセンターと連携し組織的なキャリア支援の仕組みを検討する」という目標も評価できる。

【大学評価総評】

総合理工学インスティテュートにおける大学院教育のグローバル化推進および教員・教員組織は適切であり、研究成果の発信も滞りなく行われていると判断する。学生の意見を反映する仕組みを早急に確立する必要があるとの評価結果に対し、IIST 在学生を対象に授業・生活アンケートを実施し、その結果を運営委員会で共有し、教育・研究環境の改善にむけた PDCA サイクルを仕組みとして確立する活動は高く評価できる。科目の充実については、既存の学びフィールドを見直し、需要の高いフィールドの新設を検討するという目標設定に対し、インテリジェントロボティクスフィールド新設検討委員会を IIST 運営委員会内に設置し、フィールドの整備をスタートさせたことを高く評価する。一方で、データサイエンス分野については進捗がないため、今後の進展を期待したい。

「機械学習」「ニューラルネットの理論と応用」「無線センサーネットワーク入門」「デジタルシステム設計」「先進経営科学特論」を新設し科目整備を進めたことを評価する。発表論文を整理、リスト化した結果、101 件のジャーナル論文、学会発表を確認し、在学生の研究レベルの高さが証明できたこと、特に 3 名の博士課程学生が博士号を取得したことは評価に値する。留学生の入学時研究能力のガイドラインを策定、修士課程にも同様のガイドラインを策定し、研究能力の高い学生を受け入れ、かつ恒常的な定員確保可能としたことを評価する。英語講義・研究指導を担う教員増という目標に対し、国際化専念教員を 1 名採用したことを評価する。既存の 6 つの横断的学びのフィールドを見直し、留学生の学びのニーズに対応するインテリジェントロボティクスフィールドおよびデータサイエンスフィールドの新設し、両フィールドを研究科横断的とした特色ある総合的な学びの環境を提供するという目標は極めて重要であり高く評価できる。以上、IIST の自己点検・評価活動は全般的に適切であると判断できる。2019 年度末報告の改善策や今年度の目標を踏まえた、今後の進展を期待したい。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。